

「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集:FXニュースレター

執筆担当: 斎藤登美夫



◆◆◆ No.0687 ◆◆◆

22/05/18

【 今年のドル/円、果たして「大相場」をたどるのか!? 】

ドル/円相場を週足ベースで見た場合、3月7-11日週から9週続いた連続陽線が、先週ついに途切れた。ザラ場ベースでは131.35円を示現し、一時年初来のドル高値を更新したものの、勢いそのものは続かなかったわけだ。それだけをすべての原因としているわけではないものの、長らく続いてきたドル高基調にも風向きの変化がうかがえはじめた感を否めない。年間変動率など幾つかの視点から今後の見通しを考えてみた。

◎ドル/円の年間変動率はすでに「過去の平均」を達成

当レターでたびたびレポートしているドル/円の年間変動率だが、下表のとおり変動相場移行の平均変動幅は17.59円で、変動率は15.76%となっている。それに対し、今年のドル/円は変動がすでに2017-21年という過去6年間の年間変動幅・率を超えていることは前回4月13日付けレポートで指摘済み。しかし、その後ドル高・円安は止まらず、ついに前記した過去の平均変動幅・率に匹敵する数字を記録した。具体的には前者が17.88円、後者は15.53%になる。(下表参照:5月16日時点)

つまり、今年のドル/円は5ヵ月も経たないうちに、過去の平均的な年間変動幅・率をすでに達成しているわけで、そうした視点からすれば9日に記録した131.35円というレベルはなかなか良い水準であると言えるかもしれない。もちろん、今年が歴史に残るような「大相場」。たとえば変動幅は20-30円、変動率も20%オーバーなどという展開を今後たどる可能性も否定こそできないが、それでも短期的には「天井をすでに付けた」もしくは「すでに天井付近」である公算が大きいと考えている。それどころか、もう少しいえば今年一年を考えた場合でも、ドル/円はその高値圏に達していると予想されるだけでなく、現状であれば135円や140円というレベルに到達することは難しいのではと、個人的に考えている。

何故かという、理由は大きく2つあり、うちひとつは以前にレポートしたことがあるように、「ドル/円相場は一年間の変動の多くを1-4月までに達成、残りは惰性ともいえる動きをたどることが多い」一因のため。ちなみに、その典型事例は一昨年の2020年。ドルの年間最高値は2月に記録した112.23円、対するドルの年間安値は3月に示現した101.19円。したがって、4月以降は101.19-112.23円のレンジ内で一進一退を繰り返したに過ぎなかったことが確認されている。今年もここから先、年末に掛けてそんな2020年を彷彿させる動きをたどる可能性もある。

また、経験則の観点で言うと、4年に一度行われる「米中間選挙」の実施年はドル/円の変動が鈍くなる傾向があることも、ここから先の「伸び」をあまり期待できない理由のひとつとして挙げられそう。ただし、こちらには興味深い例外がときたま発生しており、それは「動く米中間選挙実施年は狂ったような大相場をたどることが儘ある」一因ということ。具体的な例をひとつだけ挙げれば、かの著名ヘッジファンドLTCMの破綻などで金融市場が大混乱に陥った1998年(変動幅35.19円、同率27.70%)がそれだ。今年が、そんな1998年のような特異な事例となるのか否か、(ここから先の変動についても大いに注視しておきたい。)

| ドル/円の年間変動率 | | | | | | |
|------------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|
| | OPEN | LOW | HIGH | CLOSE | 変動幅 | 変動率 |
| 2010 | 92.75 | 80.23 | 94.99 | 81.13 | 14.76 | 15.91 |
| 2011 | 81.14 | 75.57 | 85.53 | 76.90 | 9.86 | 12.28 |
| 2012 | 77.06 | 76.02 | 86.79 | 86.74 | 10.77 | 13.98 |
| 2013 | 86.61 | 86.54 | 105.41 | 105.28 | 18.87 | 21.79 |
| 2014 | 105.33 | 100.76 | 121.84 | 119.68 | 21.08 | 20.01 |
| 2015 | 119.89 | 115.85 | 125.86 | 120.20 | 10.01 | 8.35 |
| 2016 | 120.32 | 99.00 | 121.89 | 117.03 | 22.89 | 18.88 |
| 2017 | 116.75 | 107.32 | 118.60 | 112.89 | 11.28 | 9.66 |
| 2018 | 112.65 | 104.64 | 114.35 | 109.60 | 9.91 | 8.80 |
| 2019 | 109.80 | 104.10 | 112.40 | 118.65 | 8.30 | 7.58 |
| 2020 | 108.65 | 101.19 | 112.22 | 103.30 | 11.03 | 10.15 |
| 2021 | 103.10 | 102.99 | 115.22 | 115.12 | 12.63 | 12.25 |
| 2022 | 115.15 | 113.47 | 131.35 | | 17.88 | 15.53 |
| 平均 | | | | | 17.59 | 15.76 |

*注:変動率は「変動幅」/「OPEN」
2022は5/16までのデータを使用し平均には含まず



当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。

なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。

